「私たちに近づき、ともに歩んで下さる復活の主」

ルカ２４：１３－３２

堀田修一　24・3・31

本日は主の復活を記念するイースター（復活節、復活祭）礼拝です。復活の主の姿を見つめましょう！

Ⅰ　エマオの途上の二人の弟子に近づき、ともに歩まれる主。応答の賛美６０２の４番「エマオの途上」

１．本日の魅力的な箇所は、主の復活のみことばの中で最も愛されているものの一つです。二人の弟子の一人は、ルカ本人ではないかという学者もいます。聖書に明確に記されていないので、推察の域を出ませんが。「ちょうどこの日（主が復活された日）、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン（約１１㎞）余り離れた、エマオ（原語：「温かい井戸」の意）という村に向かっていた。彼らは、これらの出来事（主が葬られた墓が空であること、御使いの話し等）すべてについて話し合っていた」：１３、１４。彼らにしてみれば、十字架で愛するイエス様が亡くなられたことだけでも衝撃的な出来事だった。その上、「墓の中に主イエスのからだがない」という出来事をどのように整理すればよいか分からなかった。大きな混乱、戸惑いの中にあった。※私たちも、災害に会われた人々も、突然愛する人を亡くす時、目の前で起きた出来事を受け入れることが難しく、さまざまな感情が起こるために、混乱してしまうことは不思議なことではありません。心のケアーの仕事をする方々は、そのことをわきまえています。

２．「話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた」：１５。このみことばは、素晴らしいみことばであり、主の深い愛の姿を存分に示しています。①イエスご自身は、私たちが人生に起こる出来事に当惑し、悲しみ、苦しみ、どう受け止めてよいか分
からない時に、主ご自身の方から私たちに近づいて下さる愛あふれる復活の主。※証し。

②復活の主は、最初から正しいみことばを矢継ぎ早に語られるのではなく、悩み戸惑っている私たちに寄り添いとともに歩き始めてくださる素晴らしい愛のお方。※私たちも、悩んでいる方々に、主とともに、その方に優しく近づき寄り添い、ともに歩き始める、言葉だけではなく気持ちを受け止めることから愛の関係作り、信頼関係を築けるように祈りつつ心がけましょう。「しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった」：１６。このみことばは、主ご自身が私たちの心の目を開かれない限り、私たちは、自分の悟りで復活の主を信じたり知ることが出来ないことを教えています。本日、礼拝に参加されている方々が、十字架で死なれ復活された主を自分のための救い主、主と本気で信じておられるなら、それは、復活の主ご自身が、それぞれの方の心の目を開かれたからです。感謝しましょう→「主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた」（使徒１６：１４）。

３．「イエスは彼らに言われた。『歩きながら語り合っているその話は何のことですか。』すると、

二人は暗い顔をして立ち止まった」：１７。私たちは、このみことばに示された復活の主の深い愛、忍耐、寛容、真の寄り添い方を驚きをもって学びたい。全知全能の復活の主は、「その話は何のことですか」とお聞きにならなくても、全部、ご存知でした。主が愛と寛容な方でなく、短気な方なら、彼らから１８－２４節の長い説明を聞かれなかったでしょう。２５－２７節の真理を初めから見事に語り説き明かされることで十分だったとも考えられます。しかし、愛と忍耐と寛容な復活の主は、弟子たちにも、今の私たちにも、ご自身の真理を語る前に、まず、弟子たち、私たちの正直な困惑、悩み、理解できない気持ちに耳を傾けてくださる素晴らしい愛のお方です！「人はだれでも、聞くのに早く（言葉だけでなく気持ちに寄り添い）、語るのに遅く（真理を語らないのではなく、まず、相手の言葉に耳を傾け）、怒るのに遅くありなさい（寛容である愛。「なぜそんなことも分からないのか」と初めから切れたりしない愛）」（ヤコブ１：１９）。

Ⅱ　弟子や私たちに正直な悩みや困惑を語らせ聞いて下さる復活の主

「そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。『エルサレムに滞在しながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。』イエスが『どんなことですか』と言われると、二人は答えた。「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力ある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だと望み（ローマからの解放を望み、永遠の滅びから解放を望む霊的な理解ではない望み）をかけていました。実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、仲間の女たちの何人かが、私たちを驚かせました。彼女たちは朝早く墓に行きましたが、イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、彼らはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした」：１８－２４。この内容は事実通りであり、イエス様が死からよみがえられ今生きておられると信じるに足る証言です。ここから分かることは、弟子たちも、私たち人間も、主の十字架の真の意味や主の復活の事実は、人間の頭、知識、理解では決して信じられないということです。私たちが今、主を本気で信じているのは、私たちの力ではなく、聖霊なる神が主を信じるための理解と信仰を与えられたからです。最高の奇跡です。感謝！主イエスは、生前、弟子たちに何度も「人の子（主）は必ず罪人たちの手に渡され、十字架につけられ、三日目によみがえられると言われ」（：７）ていました→（ルカ９：２２，マタイ１６：２１，マルコ８：３１）。これらの箇所を後で読んでください。

Ⅲ　まず、弟子たちや私たちの悩み、困惑に耳を傾け、その後、愛をもって真理を語られる復活の主

１．「そこでイエスは彼らに言われた。『ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことのすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのではありませんか。』それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。旧約聖書も大切にして読み味わいましょう。主イエスは、二人の弟子に、ご自身について旧約聖書全体に書いてある真理を説き明かされました。今は、私たちに新約聖書も与えられています。何という神のプレゼントでしょう！旧約聖書と新約聖書を共に読む時にご聖霊はみことばの真理を

深く教えてくださいます。

2.「彼らが…強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた」：２９。主イエスを喜んで心に迎え入れる人は幸いです。主は、私たちを救い、私たちと愛の交わりをされます。「見よ。わたしは（心の）戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて（心の）戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事（聖なる愛の親しい交わり）をし、彼もわたしとともに食事（交わり）をする」黙示録３：２０。※ある絵のあかし。

3.「彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。すると彼らの目が開かれ、イエスだとわかったが、その姿は見えなくなった。二人は話し合った。『道々お話してくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか』：３０－３２。主が私たちの罪のために十字架で死なれ、復活され、天に昇られてからは、イエス様を私たちの肉眼で見て信じることはできません。目に見えない主は、いつも私たちとともにおられます。今はどのようにして十字架と復活の主に出会うのでしょう？それは、聖書を読み、説き明かしていただくときにご聖霊により、復活の主に心で出会うのです。主を「見ないで信じる人たちは幸いです」ヨハネ２０：29